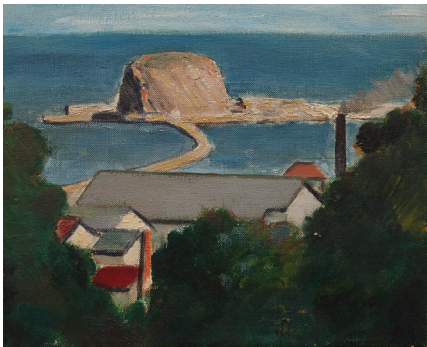


感動の場 一点の場

『網走風景』

1956 年 小川原 脩 画



山に囲まれた倶知安の町ですが、羊蹄山やアンヌプリに登ると日本海も太平洋も見下ろすことができる、海にも近い場所です。

小川原脩も美術学校時代、海岸まで足を伸ばして「冬の手」(1932 年)という作品を描いています。とはいえ、オホーツクの海となると、そう滅多に行ける所ではありません。この作品を描いた時代であっても遠くに感じられたことでしょう。

沖に広がる水平線は空に溶け込むように塗られ、手前から網走港の「帽子岩」に向かって弓なりにのびる防波堤が、奥行きのある構図を作っています。くっきりと縁取られた三角の屋根や岩の陰が、強い日差しを描き出しているのです。高い煙突から浜風にたなびく煙は海辺の町の営みを感じさせます。30 年足らずの作品の中に、小川原がはるばる訪れた網走の情景が伝わる一点です。

文：金澤 逸子（小川原脩記念美術館 学芸スタッフ）

カワシンジュガイとサクラマスの関係

ふる探訪 さと

473 回

9 月になると、尻別川やその支流で、サクラマスが産卵のために遡上する姿を目にしますが、彼らと密接に繋がっている生き物の 1 つにカワシンジュガイという貝がいます。

カワシンジュガイは、冷たい川に生息する、殻の長さが 15 ㎝ほどになる二枚貝です。成貝は川底に突き刺さるようにして生活していますが、幼生期は一風変わった浮遊生活を送ります。川に放たれた卵はヤマメ（サクラマスの陸封型）のエラに付着すると孵化し、グロキディウム幼生という形態で寄生を始めます。栄養を吸いながら稚貝に成長すると、川底に下り、そこで 100 年以上ともいわれる長い一生を過ごします。また、ヤマメ以外の魚種に寄生しても十分に成長できないため、カワシンジュガイが安定して子孫を残すためには、ヤマメが豊富に生息する川が不可欠です。

河床の流失を抑えたり、川にすむ生き物のすみかになったりと、重要な役割を果たしているカワシンジュガイですが、河川工事などの人為的影響から急激に数を減らし続けています。今ある自然をこれからも見続けるために、私たちにできることを考えなければいけません。



▲ヤマメ（尻別川水系）



▲カワシンジュガイの貝礁（尻別川水系）

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）

展覧会のお知らせ

■第 1 展示室

没後 20 年小川原脩展「私の中の原風景」part2

小川原脩没後 20 年にあたる今年、改めてその画業についての再評価や研究を重ねてきた成果を交えて、小川原作品の新たな魅力に迫ります。第 2 期の作品入れ替え後もご覧ください。

会期：開催中～11 月 27 日(日)

■第 2 展示室

しりべしミュージアムロード共同展

＜M R あいうえお＞小川原脩のどうぶつカルタ

岩内・共和・ニセコ・倶知安にある 5 つの美術館・文学館の共同企画。今回は絵画と作文がテーマ。当館は作品をカルタ風に紹介します。

会期：開催中～9 月 25 日(日)

倶知安高校 100 周年記念 京極夏彦美術展

ちみもうりょう 魑魅魍魎渦巻く 京極夏彦の世界

倶知安高校卒業生の小説家・京極夏彦が手がけるビジュアルアートに注目した展覧会です。多くの人を魅了する世界観を、京極自身による美術作品で紹介します。

会期：10 月 1 日(土)～11 月 27 日(日)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

おとなの手しごと (15)「しりべし MR の作品を模写しよう」

しりべしミュージアムロード共同展に展示中の木田金次郎・西村計雄・藤倉英幸そして小川原脩作品の模写にチャレンジ。

日時：9 月 10 日(土) 14 時～16 時 会場：第 2 展示室（無料）

お相手：沼田絵美（学芸員） 定員：10 名※要予約、高校生以上、親子可
京都逍遙（9 の 2）「風雅の美～洛北～つづき」

794 年の平安遷都に始まり、幕末維新までの千年の間、都が置かれた京都をしのぶ名所を巡ります。京都洛北、いにしへの貴族たちが隠れ住んだ寺々と離宮を訪れてみませんか。

日時：9 月 17 日(土) 14 時～14 時 45 分 会場：映像ルーム（無料）

お相手：金澤逸子（学芸スタッフ）

倶知安風土館イベントのお知らせ

■寺子屋ミュージアム「大鋸を使って木挽き体験」

開拓時代に使われていたノコギリを実際に使って、木を切ります。

日時：9 月 10 日(土) 13 時 30 分～16 時 場所：倶知安風土館

講師：小田桐亮（風土館学芸員） 参加費：無料

定員：10 名※要予約 予約受付：電話申込（☎ 22 - 6631）

■倶知安風土館いきもの調査隊「外来種・マダラコウラナメクジを探せ！」

ヨーロッパ原産のマダラコウラナメクジを捕まえながら、ナメクジについて詳しくなってみませんか。

日時：9 月 17 日(土) 10 時～12 時 集合：百年の森公園

講師：小田桐亮（風土館学芸員）、宮崎守（百年の森管理人） 参加費：無料

定員：なし※予約不要 持ち物：軍手、割りばし、飲み物、帽子など

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観覧料：一般 500 円（400 円）

高校生 300 円（200 円）

小中学生 100 円（50 円）

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観覧料：一般 200 円（100 円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は 9 時～17 時

入館は 16 時 30 分まで

※（ ）内は 10 名以上の団体料金

9 月の休館日 毎週火曜日、
美術館のみ 26 日～30 日（展示替え）

展覧会初日（10 月 1 日）は美術館観覧無料

石油ヲ造レ

もしも、石炭から石油が造れたら。かつて多くの産炭地を抱えていた北海道。炭鉱町のにぎわいは続き、鉄路は廃止されず、農産物のみならずエネルギーも自給し、過疎化も起きなかったのでは。昔、そんなことを妄想していた時期がありました。

先日、深川市までラーメンを食べに行った帰り道、滝川市美術自然史館の特別展へ。太平洋戦争の時期、国策として日本国内外の各地に 18 の人造石油工場が作られ、滝川にも現在の金額で 1 兆円ともいわれる巨費を投じ、巨大な工場が建設されていたという事実にもずもって驚嘆。

この特別展のために制作された工場群のジオラマや、当時滝川で製造された貴重な人工石油の小瓶の展示など、非常に意義深い内容でした。

なお、深川のほうに興味を持たれた方は当職までお声がけを。

館長 福原 秀和